

## 小規模小学校参観からの学びの内容：義護教諭特別科において

著者	河田 史宝
著者別表示	Kawata Hitomi
雑誌名	金沢大学人間社会研究域学校教育系紀要
号	11
ページ	17-25
発行年	2019-03-15
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00054199">http://doi.org/10.24517/00054199</a>



# 小規模小学校参観からの学びの内容： 養護教諭特別別科において

河田 史宝

Learning contents from a small primary school visit:  
One-year undergraduate a special course for *Yogo* teachers

Hitomi KAWATA

## I. はじめに

学校規模の分類は、過小規模校、小規模校、適正規模校、大規模校、過大規模校など、法令で定められている（公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引き）<sup>1)</sup>。文部科学省は、学校の小規模化に伴う教育上の諸課題を解決するために「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引 ～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～（平成27年1月27日）」<sup>2)</sup>を策定した。この内容は、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえて、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいとの考えが基盤になっている。現行の学校規模の標準（12～18学級）を下回る1～5学級の複式学級が存在する規模の場合に、一般に教育上の課題が極めて大きい場合、メリットを最大限に生かすとともに、デメリットの解消策や緩和策を検討する必要性を示している<sup>2)</sup>。特に、複式学級となる場合には「直接指導」と「間接指導」<sup>註1)</sup>を組み合わせて、複数学年を教員が行き来しながら指導する必要がある場合が多く、そのため、複式学級の課題があるといわれている。例えば、「教員に特別な指導技術が求められる」ことがあり、「複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい」ことが言われている。また、「単式学級の場合と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出

時等に未習事項が生じるおそれ」や「実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる」こと、「兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生ずる可能性がある」ことも指摘されている。小規模校では、教職員数が少なくなることにより、「学校運営上の課題（11項目）」<sup>3)</sup>、「運営上の課題が児童生徒に与える影響（9項目）」<sup>3)</sup>などを踏まえたうえで、教育活動に制約を生じさせないような留意をするとともに、学校運営上の課題が児童生徒に与える影響にも配慮する必要がある。

このような状況の中で、小規模小学校の課題を踏まえて、へき地・小規模学校での教育実習や参観実習を実施している教員養成大学もある<sup>4-6)</sup>。参加した学生の感想からは「『本物によって学ぶ』中でこそ、学習者自身が「学ぶ」ことができる」や「実習を通して「子供の実態に合わせて」が分かったような気がする。」という学びが得られた報告もある。しかしながら、教育実習での報告はあるが、養護実習に関する報告や講義内容は見当たらなかった。

養護教諭の配置基準も、3学級以上の学校に1名、小学校851人以上、中学校801人以上に複数配置とされている（公立義務教育諸学校の学級編成及び教員定数の標準に関する法律）。そのため、初任者が過小規模校や小規模校に着任することもある。

養護教諭特別別科<sup>註2)</sup>を修了した学生は、養護教諭一種免許状を取得し、様々な学校規模、学校種に着任していくこととなる。山本<sup>7)</sup>は、

小規模校の教育を「その気になれば、一人一人の子どもたちをじっくり見つめる条件がある」と述べ、小規模の利点を活用した教育を述べている。また、渋谷が小規模小学校における教育の特徴を「子ども一人ひとりの心のひだまで共感しあえる教育」「学校ぐるみで取り組める教育」「地域に根ざした父母とともに創る教育」の3点にあると述べていることも紹介している。

養護教諭の職務として、「救急処置 健康診断 疾病予防などの保健管理 保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動など」<sup>8)</sup>を行っているが、小規模小学校ではその他に、給食担当、清掃担当等の校務分掌を担っていることも報告されている<sup>9-11)</sup>。しかし、小規模小学校の経験を持たない学生や、これまでの実習経験から小規模小学校の実践を参観していない学生には、イメージが付きにくいことも考えられた。

そこで、本研究では、2014年度から開始した小規模小学校参観における養護教諭特別別科生の学びの内容を検討することとする。

## II. 調査方法

### 1. 調査対象

2014年度、2015年度の養護教諭特別別科学生58名を対象とした。

### 2. 調査方法

学校参観後、Web Class<sup>註3)</sup>により調査を行った。

### 3. 調査内容

調査内容は「参観して考えたこと、気が付いたこと」を自由記述により求めた。

### 4. 分析方法

自由記述により得られたデータはKJ法<sup>12-15)</sup>におけるグループ分けの手法を用いて分析する。自由記述された内容から一つの意味まとまりをラベル化する。長い記述であっても1つの意味まとまりのものは1枚のラベルに、短い記述であっても複数の意味まとまりが読み取れる場合は、複数のラベルにする。その後、内容の似かよった「親しいと感じる」<sup>12)</sup>

ラベルを集めグループ編成を行い、グループ内容を要約した表札を作成した。最終的に集約されたグループをそれぞれの関係性を考え空間配置の後、グループの関係性について矢印等の記号を用いて図解化した。

## 5. 倫理的配慮

学生に対して調査目的、調査協力への任意性、データの目的外使用はすることはなく、調査終了後は速やかに破棄すること、プライバシー保護、発表する際の匿名性の担保、参加しないことによる不利益はないことについて口頭により説明し、回答をもって同意を得られたものとみなした。

## III. 学生教育の現状

### 1. 5年間(2011年度～2015年度)における養護実習校の学級数別内訳

養護教諭特別別科の学生が養護実習を受けた学校のうち、高等学校1校と幼稚園1校、特別支援学校1校を除いて2011年度から2015年度の実習校を校種別に表1に示した。養護実習校は、小規模校から大規模校の間にあった。小学校においても中学校においても適正規模校で実習している割合が高かった。

### 2. 学生の新規採用先の学校規模

2012年度から2014年度の3年間のうち、大学に新規採用先の届けがあったものを対象に、新規採用あるいは講師として採用された学生を分析し、表2に示した。新規採用の着任校のうち、高等学校12件、中等学校2件、特別支援学校5件、幼稚園1件、大学1件の21件は、ホームページに学級数の記載がないものも多かったため、分析の対象から除いた。小学校では、過小規模校、小規模校の順に多く、小学校就職者の76%を占めていた。中学校は、適正規模校と小規模校の割合が半々であった。

表1 過去5年間における養護実習校の学級数別内訳

校種別		規模別学校数		学級数別実習校数						
		校数	%	学級数	校数					
小学校	31	小規模校	6	19.4	6	4				
					8	2				
	適正規模校	13	41.9		12	1				
					16	2				
					17	4				
					18	6				
					大規模校	12	38.7		21	3
									22	2
	23	1								
	24	2								
	中学校	50	小規模校	7	14.0	8	3			
						11	4			
		適正規模校	26	52.0		12	1			
						13	3			
14						4				
15						6				
16						5				
17						2				
18						5				
大規模校						17	34.0		19	6
	21	4								
	23	5								
	24	1								
	25	1								

表2 学校規模別着任件数

校種	合計	学校規模	規模別件数		学級数別件数		複式学級の有無	
			件数	%	学級数	件数		
小学校		過小規模校	10	40.0	2	1	複式学級有	
					3	2	複式学級有	
					4	5	複式学級有	
					5	2	複式学級有	
					小規模校	9	36.0	
		8	1					
		9	1					
		11	1					
		適正規模校	6	24.0				
					17	2		
23	1							
小計			25					
中学校		小規模校	3	42.9	6	1		
					8	1		
					10	1		
		適正規模校	4	57.1		16	1	
						21	1	
						22	2	
小計			7					

3. 養護実習校と新規着任校の学校規模の比較  
 養護実習校と新規着任校の学校規模を表3に示した。実習校は適正規模校の中学校での実習の割合が高いが、新規着任校の学校規模は、小学校の過小規模校の割合が高く、ついで小学校小規模校であった。養護実習校と新規着任校の学校規模の違いがあった。

#### 4. 小規模小学校の養護活動に関する教育内容

2014年度から、小規模校に勤務している養護教諭（特任講師）から保健室の経営や養護活動の概説を「養護活動（健康診断を含む）」（必修）の中の1コマで行った。

講義の内容は、小規模小学校で工夫しながら行っている養護活動、配慮している点、掲示物などである。また、健康診断運営や児童保健委員会活動、校務分掌での大規模と小規

模との運営の違いや工夫の違いについても触れられた。

#### 5. 小規模小学校参観の概要

2014年度、2015年度共に、特任講師が在籍する小規模小学校への参観を行った。訪問先の小学校は、5学級の複式学級がある学校である。全校生徒は38名で、学級は、5年と6年、3年と4年が複式学級であり、1、2年生は単級、特別支援学級が1クラスある過小規模校に分類される。学校参観の内容を表4に示した。小学校の学校の様子を知るために学校長から学校運営についての講和と学校全体の参観、複式学級での授業、小規模小学校で行っている保健室経営やその特徴の説明を受けた。

表3 養護実習校と新規着任校の学校規模の比較

校種別		実習校の学校規模		着任校の学校規模	
		校数	%	校数	%
小学校	過小規模校	0	0.0	10	31.3
	小規模校	6	7.4	9	28.1
	適正規模校	13	16.0	6	18.8
	大規模校	12	14.8	0	0.0
中学校	小規模校	7	8.6	3	9.4
	適正規模校	26	32.1	4	12.5
	大規模校	17	21.0	0	0.0
	合計	81	100.0	32	100.0

表4 参観の内容

訪問日	2014年10月21日(火)	2015年11月4日(水)
参観内容	保健室経営(養護教諭) 学校運営について(学校長) 小規模小学校と養護教諭(学校長) 授業参観	保健室経営(養護教諭) 学校運営について(学校長) 小規模小学校と養護教諭(学校長) 授業参観 「ふるさとの組曲」和太鼓

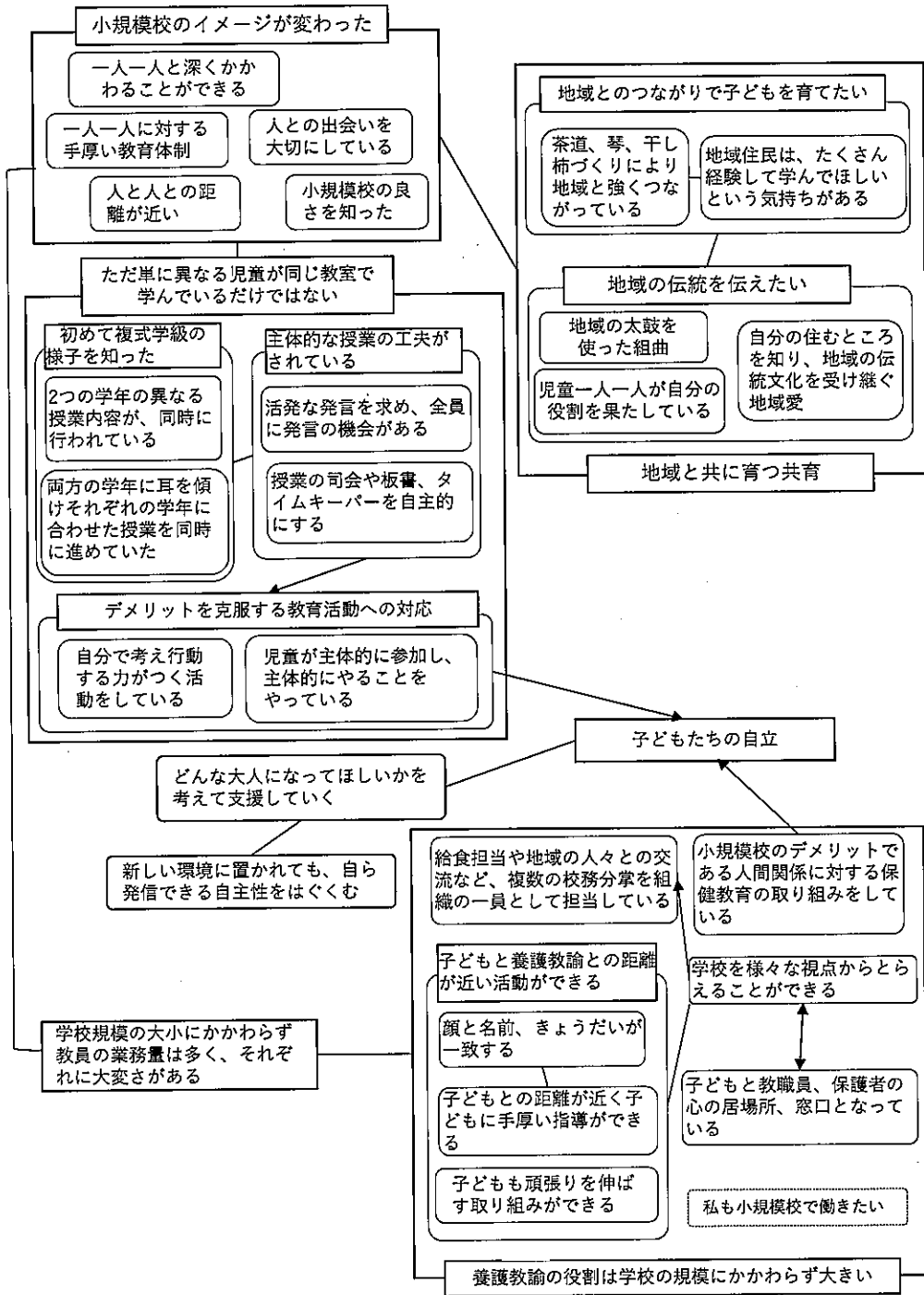


図1 小規模小学校参観から学生が学んだ内容

#### IV. 結果

ラベルを基に計2回の分類を行った。2回目で得られた元ラベルのグループ編成を行い、空間配置を行った(図1)。

学生は参観を通して、小規模校のイメージが変わった。まず、小規模校では、一人一人と深くかかわることができる。そのため一人一人に対する手厚い教育体制がある。そして、人との距離が近いうえ、人との出会いを大切にしている。これらのことから小規模校の良さを知った。

学生は、2つの学年の異なる授業内容が同時に行われている様子や、両方の学年に耳を傾けそれぞれの学年に合わせた授業を同時に進めていることから、初めて複式学級の様子を知った。また、活発な発言を求め、全員に発言の機会があることや授業の司会や板書、タイムキーパーを自主的にする児童の様子から、主体的な授業の工夫がされているととらえていた。自分で考え行動する力がつく活動をしていることや児童が主体的に参加し、主体的にやることをやっていることを通してデメリットを克服する教育活動への対応をなされていることを学んでいた。

養護教諭は、学校を様々な視点からとらえることができることから、給食担当や地域の人々との交流など、複数の校務分掌を組織の一員として担当している。さらに、子どもと教職員、保護者の心の居場所、窓口となっているからこそ、学校を様々な視点からとらえることができるともいえる。顔と名前、きょうだい的一致するうえに子どもとの距離が近く子どもに手厚い指導ができるため、子どもの頑張りを伸ばす取り組みができ、子どもと養護教諭との距離が近い活動ができる。このようなことから、養護教諭の役割は学校の規模にかかわらず大きいと学んでいた。

地域住民は、たくさん経験して学んでほしいという気持ちがある。茶道、琴、干し柿づくりにより地域と強くつながっている。それは、地域とのつながりで子どもを育てたいという思いの表れとも受け取れる。自分の住むところを知

り、地域の伝統文化を受け継ぐ地域愛と地域の太鼓を使った組曲に、児童一人一人が自分の役割を果たしている。これらは、地域と共に育つ共育になっていた。

どんな大人になってほしいかを考えて支援していくことは、子どもたちの自立や、新しい環境に置かれても、自ら発信できる自主性をはぐくむことに関連している。学校規模の大小にかかわらず教員の業務量は多く、それぞれに大変さがあることを学んでいた。参観を通じて、私も小規模校で働きたいと考える学生もいた。

#### V. 考察

小規模小学校の参観は、学生の小規模校のイメージの変容をもたらしていた。

学生のイメージの変容をもたらしていた大きな要因は、複式学級の授業参観だと考える。学生は、複式学級の授業をただ単に異なる学年の児童が同じ教室で学んでいるだけではないととらえていた。初めて複式学級の様子を知り、主体的な授業の工夫がされている中でデメリットを克服する教育活動への対応がなされている教育活動を目の前で見て、小規模小学校で行われている教育を学んだと考える。

参観を通して、一人一人と深くかかわることができるのとらえていた。このことは、「子ども一人ひとりの心のひだまで共感しあえる教育」<sup>7)</sup>とも重なるところがある。地域とのつながりが深い小規模校では、顔も名前も、きょうだいもわかる中で、もしかしたら保護者や祖父祖母とのつながりもあるかもしれない。そのような子どもや保護者の距離が近い環境の中で、養護教諭の活動ができることは目的を持って意識的に取り組む活動につながりやすい。複式学級が存在する1~5学級では、「教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる」といったデメリットも示されている<sup>2)</sup>が、小規模校のデメリットである人間関係に対する保健教育の取り組みをしているという養護教諭からの説明をうけ、意図的に働きかける保健教育を通して、子ども

たちの自立につながる教育が養護教諭によって行われていることを理解していた。

小規模小学校の養護教諭の役割は、学校の規模にかかわらず大きいと学んでいた。養護教諭との子どもの距離が近いことも小規模小学校のメリットである。その反面、小規模校のデメリットとしてあげられる固定化しやすい人間関係に対しては、小規模校のデメリットである人間関係に対する保健教育の取り組み内容を聞き、学校規模のデメリットに対する養護活動の必要性も理解していた。大規模校では、この反対に人間関係が希薄になることもあるため、同様にそのデメリットに合わせた養護活動が必要となってくる。さらに、養護教諭は、学校を様々な視点からとらえることができることから校務分掌も学校組織の一員として担当していることも理解していた。大規模校では教員の人数が多いため一人当たりの教員が分担する校務分掌は少なくなるが、小規模校では校務分掌の数が少なくなることはないため一人当たりの教員が分担する校務分掌はおのずと多くなる。校務分掌の分担を理解した上で、「なんでも屋さん、便利屋さん」<sup>7)</sup>に陥らないように、養護教諭として子どもたちをみていく視点を忘れないようにする必要はある。

現行の養成機関では、必ずしも小規模校における養護教諭の職務を講義しているとは限らない。しかし、新規採用者や講師として小規模校に初めて着任した際、「小規模小学校の学校運営上の課題と児童生徒に与える影響」<sup>2)</sup>等を理解した上で、養護教諭の職務を果たせるように講義内容として含めることが求められる。学校規模の大小にかかわらず必要な校務分掌があるため、学校運営に協力するとともに、養護教諭としての視点を生かした養護活動が望まれる。

これらのことから、小規模小学校のメリットやデメリットを踏まえた養護教諭の職務や学校教育を参観により学んでおり、観察参加型実習として成り得ることが考えられた。

## 付記

本研究は、平成 25-27 年度科学研究費基盤研究 (C) (25381244) 研究代表者 (河田史宝) の一環として執筆された研究成果の一部分である。

一部は、日本学校保健学会第 63 回学術集会 (平成 28 年つくば) にて口頭発表にて報告した。

## 注釈

注 1)

複式学級における「直接指導」とは教師が子供たちと直接関わりながら進める指導のことをいい、「間接指導」とは一方の学年に教師が直接指導しているとき、他方の学年に学習の進め方を事前に理解させ、子供たちだけで学習を進めさせることをいう<sup>3)</sup>。

注 2)

養護教諭特別別科は、看護師国家試験に合格し厚生労働大臣の免許を受けている者、保健師助産師看護師法第 21 条に定める看護師国家試験の受験資格を有するものあるいは見込みのものを入学資格者として、1 年間で教職に関する科目や養護に関する科目を専門的に学び、養護教諭 1 種免許状を取得させる課程である。

養護教諭は、school nurse と異なる教育職員であり、学校における教育活動をとおして活動を行っていることから、日本学校保健学会、日本養護教諭教育学会の英文表記を採用し、Yogo teacher と示した。

注 3) Web Class e-Learnings システム

B 大学では、所属する学生、教職員が、大学内外における情報を取得し、学習、教育などを行うことを目的に Acanthus Portal というシステムが構築されている。そのシステムの 1 つに Web Class という講義科目のコースがそれぞれの科目に設定されており、講義受講生は Web Class を通して資料の閲覧、課題レポートの提出、アンケート調査の回答を行うことができる。今回は、そのアンケート機能を用いて調査を行った。

## 引用文献

1) 法令から見た適正規模

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/s](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/s)



- [hotou/029/shiryo/05061001/sankou002.pdf](http://hotou/029/shiryo/05061001/sankou002.pdf)  
(2016.2.1.検索)
- 2) 文部科学省：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引 ～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～ (26 文科初第 1112 号 平成 27 年 1 月 27 日)
  - 3) 前掲 2) 7～9 頁
  - 4) 前田賢次：へき地・小規模校教育実習の実際－沼牛小学校の事例紹介、へき地教育研究 (68) 95-120、2014  
<https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00003300/0003340/hekisyo-kj.pdf> (2016.03.01.検索)
  - 5) 屋宮栄作：離島へき地小規模校における観察実習の意義：奄美大島における学校環境観察実習とその教育効果、鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 (25)、303-309、2016  
<http://hdl.handle.net/10232/00029415>  
(2016.03.26.検索)
  - 6) 松原眞志夫：へき地教育の現状と課題－閉校する山間小規模小学校への 6 年間の訪問・交流を通して、東京福祉大学・大学院紀要 1 (2)、181-188、2010  
<https://gair.media.gunma.ac.jp/dspace/handle/10087/7021> (2016.03.26 検索)
  - 7) 山本万喜雄：小規模校における養護教諭の仕事を考える、保健室、No.103.3-10、2002
  - 8) 中央教育審議会：子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために 学校全体としての取組を進めるための方策について (答申)、平成 20 年 1 月 17 日
  - 9) 笹木真理子：小さな学校でこそできることを求めて、保健室、No.103.21-28、2002
  - 10) 荒川智恵：生徒の悩みに丹念に付き合える小規模定時制高校、保健室、No.103. 29-37、2002
  - 11) 池田亜紀子：小さくても大きくても私の仕事は養護教諭－都心の小さな中学校で一、保健室、No.103. 38-45、2002
  - 12) 川喜田二郎：川喜田二郎著作集 4、発想法の科学、中央公論社、1995
  - 13) 川喜田二郎：続・発想法－KJ 法の展開と応用－、中公新書、1970
  - 14) 田中博晃：KJ 法入門：質的データ分析法として KJ 法を行う前に、より良い外国語教育のための方法－外国語教育メディア学会関西支部メソドロジー研究部会 2010 年度報告論集、17-29、2011
  - 15) 三村修：KJ 法における作法の研究 (2015.10.06. 検索)  
<https://dspace.jaist.ac.jp/dspace/bitstream/10119/537/2/2582paper.pdf>

## 要 約

本研究は、小規模小学校参観における養護教諭特別科生の学びの内容を明らかにすることである。

2014年度、2015年度に小規模小学校の参観した58名の学生を対象にWeb Class e-Learningsシステムにより質問紙の配信と回収により自由記述式の調査を行った。分析は、KJ法を用いた。

学生は、複式学級の授業の様子や子どもたちの活動から小規模校のイメージを変えていた。地域とのつながりの中でともに共育をしていることも学んでいた。養護教諭の役割は学校の規模にかかわらず大きく、子どもと養護教諭の距離が近い活動ができるメリットをとらえていた。小規模校のデメリットに対する保健教育にも取り組み、子どもたちの自立を支援するかかわりをしていることも学んでいた。

小規模小学校のメリットやデメリットを踏まえた養護教諭の職務や学校教育を参観により学んでおり、観察参加型実習として成り得ることが考えられた。

Learning contents from a small primary school visit: One-year undergraduate a special course for *Yogo* teachers

### 【abstract】

This study was conducted to identify the learning contents of a small primary school class taught by a *Yogo* teacher when visiting the class. Questionnaires (free description format) were distributed to 58 students who visited a small primary school. The responses were collected using a Web Class e-Learning system in fiscal 2014 and 2015. The results were analyzed using KJ-method.

Students changed their image of small primary school according to the status of a compound class the children's activities. They also learned that education is performed while maintaining a good connection with the community. The roles of *Yogo* teachers are important irrespective of the school size. Results demonstrated the benefits of teaching where distance between children and *Yogo* teachers is short. They understood health education with emphasis on the shortcomings of small schools and learned about their involvement in the support of the independence of the children.